八十瀧原　当谷のふもと小流をくだり加古川のそこに取やる
　通路遠号なるの通いなる哉あり

西乳山佐伯寺蹟　開基泰眼大師　此寺の縁起天心の孔子集りを今三本郎久留米藩主眼を
　年号延慶二年正月廿七日誌む

△石屋　牛田の小池尻村より
　此所より湯船田の大池の通
　戸口一間半ほどの洞穴にして内は地ひろく奥行三間半
　みて横二間奥へ回ること一間半ほどにして高さ一間半ほど
　より先上ほどの基なりへてうべし　修の児が窟ならん

腰掛岩　岩盤のゆるぎ　腰とくるぶしとの
　石形ちょうど腰掛けるの人ほどあり　鞍馬寺蹟　神名の左天が来よりに下ゆのごとく長さ
　十尺周横十周の法あり

毘沙門岩　天ぐ赤ゆのごとくあり　自然石の面ほ　毘沙門不動を彫刻とおぼしくほどあり

神名の撫址　神名村よりあり今常楽寺と号
　撫きの石脚を建る吊文の別不長治の一族民部生　教治居撫一万石余天心六年ごろ
　没名歩　神名村の西路傍にあり清浄水　石歩清水　中西村にあり石歩と号け一方三尺歩め
　ちょうど深さ一人用の盃あり　石の石歩ごとく深さ一尺二寸歩の穴と穿ち歩の上ゆ流下
　左の石歩ごとく窪あいを御の名物にて深きこと測るべからず　至春を撰び茶の湯に
　道満法師屋敷跡　海石神社の小祠下手岸村より　阿海物と道満法師　播磨国より
　ありと今民居となる　細流と岩の間をくぐり流湯師堅の師を慕きて入るなり　佐用郡よりも濃塚あり
　妙見大明神　例祭九月十三日

神机村　播磨国風土記に曰出雲国阿菩大神大和国畝火香山耳梨の三山
　相闘と聞てこれを諫止めんとて播磨を来りしに国和止むと聞てなほ国へ帰り
　其条ありて神社を覆せて是を座して播磨に止る故に神集の形寝と号けたり神机即
　生石明神鳥居　神机村路傍にあり石の鳥居とす　一道神先の右揚
　これ石製殿一つのみ　八坂神社
　又拝殿あり　華表雄石　頭然高岌　確乎不磨　千古雙立
　石寶殿　鞏巌室と稱し　山腰よりあり　石殿をなして神祠とす大三尺三尺八寸
　方高さ二尺六寸とべて社檀の形を彫りうると撰る側ろうえ有る座根の
　古墓も撰ると人て拝ろ人宮殿の座と面に一石をなして彫りなしうる
　るえり此地い近国の名物龍山石なりとて家殿も一箇又
　余丈の石山の中を切抜即ち切抜ける石そ造り甚不に削り捨る
　さま云古墓ごとく座根との間に方ともみ切りけて抜くとあるうる有ある
　良ら云面ごとて松を生ずに周る水の湧くるい先拾て空ろんがり

国立国会図書館　タイトル『播磨名所巡覧図会 5巻』 請求記号 839-75
ガラス使用